

国語科学習指導案

尾道市立向東小学校

指導者 田中 涼子

1 日 時 平成19年11月30日(金)

2 学 年 第1学年2組 男子20名 女子19名 計39名

3 単元名 のりもののことをしらべよう 「いろいろなふね」

4 単元について

○単元観

①本単元のねらい

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。重要領域(C 読むこと)

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるとは、書かれている事柄(説明)の順序に気をつけながら、話の大体をとらえ読んでいくということだととらえている。そのためにはまず、順序に従って内容を押さえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりすることが必要である。ここでいう順序とは、時間の順序、事柄の順序など、取り扱う教材によってとらえ方も異なり、どのような順序に着目させるかを明確にしておく必要がある。

楽しんで読書しようとする態度とは、本教材を学習した後、自らが楽しむために進んで読書しようとする態度を育てることである。第1学年及び第2学年の時期の読書に「楽しさ」を味わうことは、生涯にわたって読書に親しむ態度を育てることにつながる。児童の読書に親しむ習慣は、学校のみでなく、家庭や地域などの協力により定着していくものである。そのことを視野に入れて、連携をとって指導していく必要がある。

本教材は、教材文の読み取りのあと、教材から学んだ説明の文型を生かして、「乗り物クイズ」を作り、「乗り物クイズ大会」をすることによって、説明の文型の定着をねらいとしている。そのため、それぞれの船の説明の文型や構成・キーワードとなる助詞やことばにこだわった読み取りの学習が重要である。

教材文は、はじめ・なか・おわりという構成や、四つの船の具体例が「役目」「設備」「使い方」の三文ずつで説明されており、文章構成も比較的わかりやすく、内容も読み取りやすい。また、説明の文型が似ており、説明のための文型を学ぶことができる。そして、どの船もカラーの大きな写真が載っており、教材文の叙述と船の写真を照らし合わせながら、正しく読み取っていくことができる。また、子どもたちにとって馴染みもあり、興味もある「乗り物」という題材のため、主体的に読み取っていきやすく、易しい読み物への読書意欲を喚起するのに適した教材である。

②本単元の内容

・児童観

本学級の児童は、一学期に「どうぶつのはな」という説明文を学習し、「問い」と「答え」がどこに書かれているのかを見つけたり、写真と教材の文章を照らし合わせたりしながら内容を読み取る学習をした。しかし、説明の順序に気付きながら読み取れず、大体の内容がつかみきれていない児童もいた。また、週三回の朝読書の時間や週一回の読書の時間を利用して、読書活動も日常的に行っている。読んだ本を「読書貯金」に記入したり、ボランティアの方による月に一回の読み聞かせを聞いたりする中で意欲を高めている。しかし、児童の中には、主体的に読書に取り組み、ほんの短時間でも読書に没頭する児童もいれば、たくさん並んだ文字への抵抗から、内容を読み取って読書を楽しむには至っていない児童も数名見られる。

学習態度の実態としては、自分の考えをもち、授業を主体的に取り組むことができにくい児童もいたが、二学期に入って、「サラダげんき」という単元では、自分の意見や思いを書く時間を十分にとり、友だちと交流する場面を多く取り入れたことで、国語の授業を楽しんで意欲的に取

り組むようになってきている。しかし、まだ、発表することに自信がなかったり、恥ずかしさがあったりし、主体的な挙手や発言ができにくい児童も多い。

また、毎日の授業や家庭学習で「音読」に取り組んでおり、語をまとまりとしてとらえながら、はっきりとした声で音読ができるようになってきている。

このように、児童の読み取りの力にも、学習意欲にも個人差があるので、適切な支援をし、教材の叙述に沿って、読み取りを進め、意欲的にクイズ作りに取り組めるように指導する必要があると言える。

・指導観〈研究主題「自ら学び、かかわりあう授業の創造」との関連〉

●「読みとる」力を高めるには、授業でも家庭学習でも毎日取り組んでいる「音読」を継続する。授業では、自分自身が「読む」とこと、友だちの音読を「聞く」とことの両方の活動を通して、教材や友だちとのかかわりを大切にして読みを深めていきたい。また、「役目」を表すことば「〇〇は、～するためのふねです。」や、「設備」を表すことば「〇〇には～や…があります。」、「使い方」を表す「(人は)～します。」など、助詞やことばにこだわって、正確に読みとらせる工夫が必要だと考える。正確に読み取らせる支援として、「役目」「設備」「使い方」をそれぞれ色分けして線を引き、ポイントとなる言葉にしるしをつけて読みとらせていく。具体例の一つ目の「客船」で説明の文章の構成と説明の文型をつかませ、二つ目の、「フェリーボート」では、「客船」の読み取りで学んだ助詞やことばにこだわって、説明の文章の構成を再確認させたい。具体例の三つ目の「漁船」は、三つの段落の順序を入れ換え、キーワードに着目して「役目」「設備」「使い方」の順番に並べる活動を取り入れてから、内容の読みとりを行う。その中で、説明の構成・順序の理解を深める。四つ目の「消防艇」では、キーワードになる助詞やことばを隠し、それぞれの文章に合うようにことばを考える学習をする。四つの具体例の指導で、スモールステップを踏んで、それぞれの船の説明の内容や説明の構成を理解させた上で、本教材の全体構成を把握させたい。

●かかわりあうために、読みとったことを最後まで大きな声でわかりやすく発表したり、友達の発表の大事なことを落とさないように聞いたりさせたい。船について知っていることなど意見を交流する場を多く設定し、その段落が、船の何について述べられている段落なのかを発表する時には必ず、根拠（キーワードとなる助詞やことば）も述べて発表するように指導する。また、音読では、仲良し読み（二人組みで一文ずつ交互に読む）、たけのこ読み（好きな一文で立って読む）などさまざまな方法で音読をし、児童同士のかかわりを深めていきたい。

5 単元の見目標

- 書かれている事柄を、正確に読み取る。
- 乗り物について書かれた本を読み、説明のための基本的な文型を使ってクイズを作る。

6 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読 む	オ 言語事項
①乗り物に興味をもち、進んで学習に取り組もうとしている。	①順序に気をつけながら、内容の大体を読むことができる。	①新出漢字・片仮名で書く語を読んだり書いたりすることができる。

7 単元の学習計画と評価規準（全12時間）

次	指導計画	評 価				
		関意	読む	言語	評価規準	評価方法
一 (1)	○初めて知ったことや、もっと知りたいことを話し合い、学習の見通しを持つ。 (1)	◎		○	ア①興味を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。 オ①新出漢字・片仮名を正しく書くことができる。	行動観察 発言 ワークシート
二 (5)	○キーワードに着目して客船の「役目」「設備」「使い方」を読み取り、特徴をまとめる。 (1)		◎	○	エ①文章構成に気をつけてキーワードをもとに特徴を読み取ることができる。	ワークシート 発言
	○キーワードに着目してフェリーボートの「役目」「設備」「使い方」を読み取り、特徴をまとめる。 (1)		◎	○	エ①助詞やキーワードに気をつけてフェリーボートの「役目」「設備」「使い方」を読み取ることができる。	ワークシート 発言
	○説明の順序に気付きながら、漁船の「役目」「設備」「使い方」を読み取る。 (1) 本時3/5		◎	○	エ①説明の順序を考えて本文を並べ、漁船の特徴をまとめることができる。	ワークシート 発言
	○消防艇の「設備」「使い方」を読み取り、「役目」を考え、説明のための適切なことばを考える。 ○いろいろな船の特徴をまとめる。 (1)		◎	○	エ①消防艇の「役目」「設備」「使い方」のそれぞれの説明のためのことばを考え、それぞれの船のそれぞれの特徴をまとめることができる。	ワークシート 発言
	○いろいろな船の特徴をまとめ、教材文の構成を振り返る。 ○調べてみたい乗り物を決める。 (1)	○	◎		エ①文章構成をとらえ、大体の内容をとらえることができる。 ア①興味をもち、進んで取り組んでいる。	ワークシート 発言

三 (6)	○好きな乗り物を選び，その乗り物について書かれている本を読む。(2)	◎			ア①役目や設備に注意しながら，興味をもって読書をしている。	行動観察
	○調べたことをもとに，乗り物クイズを作る。(2)		○	◎	ウ①基本の文型に沿って，クイズを書くことができる。 エ①乗り物の特徴を読み取ることができる。	ワークシート
	○作ったクイズで，乗り物クイズ大会を開く。 ○友だちの発表のよかったところを話し合う。(2)	◎		○	イ①友だちにわかりやすくクイズを発表し，友だちの発表を，役目や設備に気をつけながら聞くことができる。	行動観察 発言

8 本時の展開

① 本時の目標

本時の目標	評価規準	評価方法
説明の順序に気づきながら 漁船の「役目」「設備」「使い方」を読み取る。 [C読むこと(3)ィ]	助詞やキーワードに着目し、本文を「役目」「設備」「使い方」の順番に並べ、漁船の特徴を読み取ることができる。	ワークシート 発言

② 本時のポイント

助詞とキーワードに着目し、「役目」「設備」「使い方」の説明の文章を正しい順序に並べかえ、説明の順序に気づきながら、漁船の特徴を読み取る。

③ 準備物

ワークシート 写真

④ 学習展開

	学習活動	指導上の留意点	■評価規準 □評価方法
課題設定	1 前時の学習部分を音読して想起する。 ・一文読み 本時の学習課題を設定する。 ぎょせんはどんなふねなのかよみとろう。		
追究	2 シャッフルされた形式段落⑧⑨⑩を音読する。 ・一斉読み 3 並べ替えて説明の文を完成させる。 ・自力解決 ・発表 4 正しく並べ替えた形式段落⑧⑨⑩を音読する。 ・一斉読み 5 漁船の「役目」を読み取る。 ・魚をとるための船 『〇〇は～するためのふねです。』 6 漁船の「設備」を読み取る。 ・むれをみつける機械 ・あみ 『このふねは～います。』 7 漁船の「使い方」を読み取る。 ・見つけた魚を網で取る 『～します。』	・入れ替えた文章を掲示しておき、音読する。 ・いくつかの文でできているか確認しておく。 ・キーワードに印を付けながら、「役目」「設備」「使い方」の順番に並べ替えさせる。 ・キーワードを根拠にして発表させる。 ・説明の順序を意識して音読させる。 ・説明の順序を意識しながら、読み取りを進めていく。 ・機械やあみの写真を出して、何のために使うものなのかをおさえながら読み取らせる。 ・各形式段落の文章に返しながら、段落相互の関係にも目を向けさせる。 ・わからないことばについては、子どもたちの意見をもとに、理解させていく。	

	8 「おかあさんあのね」を記入する。 ・ さかなをとるふね ・ むれをみつける機械やあみがある など	・ 本時に習った、「役目」「設備」「使い方」の三つの内容をふまえた内容で書かせる。	■ 説明の順序に気付きながら、漁船の「役目」「設備」「使い方」を読み取ることができる。 □ ワークシート・発表
まとめ	9 本時の学習したところを音読する。 ・ 一文読み ・ グループ読み	・ 本時の学習内容や説明の順序を意識しながら音読したり、音読を聞いたりさせる。	